外国人と地域がつながる災害対応スキルアップ事業
災害対応スタンプラリー　報告書

岡山市国際課

外国人市民は、日本の災害や地域の防災活動についてあまり知らなかったり、地域住民とコミュニケーションを取る機会が少なかったりすることから、災害が起きたときに逃げ遅れたり、地域での共助が難しかったりすることが想定されます。

一方で、地域住民も、外国人市民とのコミュニケーションに不安を持っていたり、災害時に外国人市民が支援する側になれるという認識があまりなかったりという現状があります。

そこで、外国人市民が日本の災害特性や救急体制の仕組みを学び、災害時に適切な対応がとれるよう「自助」の力を高めるとともに、地域の中での自主防災の取組を学ぶ場を設けることで、地域住民と外国人市民の顔の見える関係づくりを進めるきっかけづくりとするとともに、「共助」の意識を啓発するため、この事業を実施しました。

概要

日時

2024年11月16日（土）
13:00～16:00

場所

岡山市総合文化体育館
サブアリーナ

ファシリテーター

地域国際化推進アドバイザー
明木一悦氏

参加者

外国人	22人	日本語学校学生、日本語教室参加者、市内企業の従業員、岡山市外国人市民会議委員　など　10か国
日本人	36人	公民館地域担当職員、外国人を雇用する企業、スポーツ推進委員、市職員、高校生、親子、日本語教育関係者　など
見学者	4人	連合町内会長、消防職員、市職員、日本語学校職員

企画時に気を付けたこと

楽しめる スタンプラリー形式

外国人参加者と日本人参加者の交流を促進するため、スタンプラリー形式とすることでゲーム性を持たせた。

スタンプラリー形式とすることで、気軽に親子でも参加できるようにした

様々な関係団体の参加

災害に関わる様々な団体がスタンプラリーのブースを出展することで、多様なブースを用意した。

同時に、出展者も災害時の外国人支援について考えるきっかけとなったり、外国人市民とコミュニケーションを取る練習となる。

地域の キーパーソンの参加

実際に災害が発生した時や、地域で行っている防災訓練、イベント実施時に外国人市民にも目を向けてもらえるよう、地域のキーパーソンとなるような、地域での役を務めている人や、公民館の地域担当職員、消防団や町内会の関係者等にも声をかけ、参加を促した。

広報活動

日本人向け、外国人向けを1枚のチラシに盛り込んだが、対象者がぼやけてしまって、参加者集めに苦労した。
裏表に分けるなどし、外国人向けには楽しさや災害について学ぶ必要性について、日本人向けには、防災についての知識を外国人市民にも共有してもらいたい（防災に関わっているが外国人との関わりのない人向け）や、災害発生時に外国人支援や外国人の方に助けてもらうことがあるかもしれない、ということを強調したチラシとした方がよかった。

国籍よりも話せる言語の方が重要だったので、確認したのは話せる言語。ただし、後の報告を考えると、国籍もあった方がよかったとも感じた。

タイムスケジュール

13:00～13:10　オリエンテーション

13:10～13:40　外国人向け講義（岡山の災害について）
　　地域住民向け講義（やさしい日本語と翻訳アプリの使い方について）

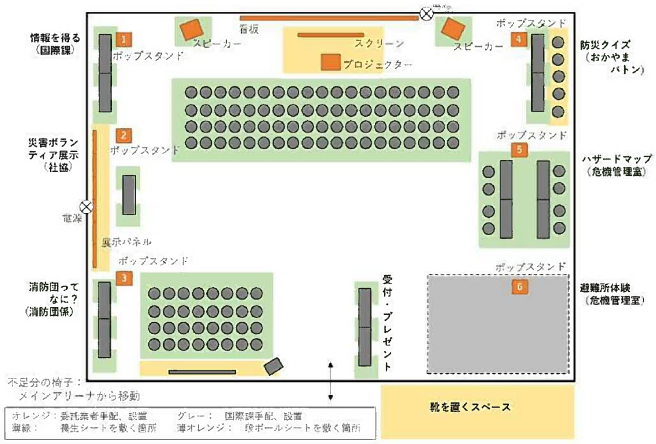
13:40～14:00　自己紹介・アイスブレイク

14:00～15:30　スタンプラリー

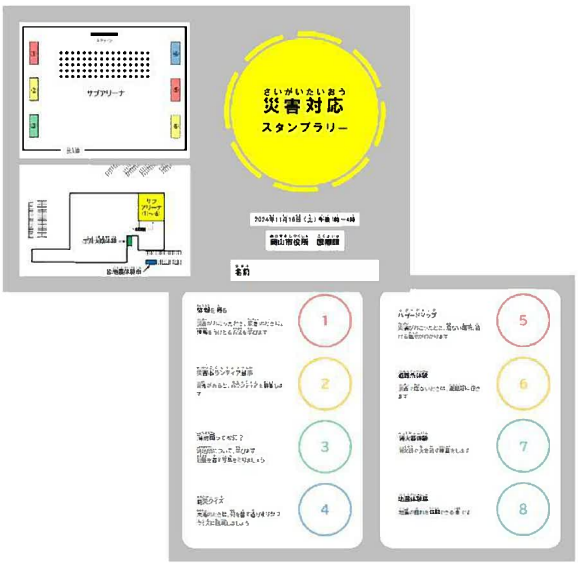
15:30～15:45　119番通報体験

15:45～16:00　振り返り

会場レイアウト



スタンプラリーカード



当日の様子

受付

- 「受付」やそのほか案内を、クレアの災害時多言語支援シートやChatGPTを使って多言語化し用意
- 呼んでほしい名前をひらがなでカードに記入し、名札をつくる

オリエンテーション

ファシリテーター：
地域国際化推進アドバイザー・MDST 代表
明木一悦氏

- 写真・映像撮影がOKか確認
（NGの人には赤い紐の名札を配布）
- 今日のスケジュール、会場図を説明

外国人市民向け講義

講師： 岡山市危機管理室
岡山市で起こる災害を知ろう
能登半島地震の写真や西日本豪雨の写真などを交えて
ハザードマップを知ろう
災害に備えよう（準備しよう）

地域住民向け講義

講師：環太平洋大学 講師 大平 真紀子氏
やさしい日本語について
翻訳アプリ「Voicetra」の使い方

水害着せ替えゲーム

担当：おかやまバトン
水害時にはどんな服装で逃げたらいいのか、ゲームを通して学ぶ

岡山市社会福祉協議会

担当：岡山市社会福祉協議会
社会福祉協議会やボランティアセンターについての説明
災害時にボランティアとして参加してほしいという旨の呼びかけ
能登半島地震の写真の展示

消防団ってなに？

担当：学生消防団員
消防団についての説明
制服を着て記念撮影

情報を得る

担当： 国際課
岡山市災害時多言語支援センター
岡山市防災情報メール（12か国対応）
NHK World （NHK国際放送局から資材提供）
について説明し、岡山市災害時多言語支援センターの情報を投稿するFacebookや岡山市防災情報メールへの登録を呼び掛ける

多言語Webハザードマップ

担当：危機管理室
英語、中国語（簡体字・繁体字）、韓国語版のある多言語Webハザードマップを各自のスマホで使い、自宅の危険度や近くの避難所を確認

避難所体験

担当：危機管理室
ベッドとトイレの組み立てを体験

水消火器体験

担当：南消防署、浦安消防団
水消火器で的を倒す練習
火が大きくなったらまず逃げるように、などの説明

地震体験車

担当：南消防署・浦安消防団
地震体験車で震度6強を体験

参加者、協力者の声

日本人参加者

メンバーが日本語が堪能だったので、アプリを使うシーンがなかったのは少し残念だった。

各ブースの人が、なんちゃって英語をしゃべるのが、日本語が堪能な英語ネイティブにはおかしく感じたようだ。

ゆっくり話すことや、ルビの必要性などが参考になった。自分も外国に行ったら英語はゆっくり話してほしい。

まずは友達になったり知り合いになったりすることが大切だと思った。

外国人参加者

日本に長く住んでいるが、避難所のことは知らなかったので、とても参考になった。

やさしい日本語で教えてくれたので、よく理解できた。

災害時には日本人を助けたい。

運営協力者

既存のパンフでは、外国人には難しくて伝わりにくいということがわかった。

今後国際課の災害時多言語支援センターとも協力し、情報発信してもらったり、災害時多言語支援センターが得た外国人のニーズを吸い上げるなど、協力していきたい。

成果と課題

成果

参加者の満足度は高く、外国人、日本人ともに楽しく、学びのある時間となった。

外国人と日本人がグループで活動できる内容とすることで、活発なコミュニケーションを促進することができた。

外国人同士の横のつながりをつくるきっかけにもなった。

ブース運営に協力いただいた方にとっても、外国人支援について考えるきっかけとなった。

テレビニュースで報道されたことで、参加者以外の人にも災害時の外国人対応について知ってもらうきっかけとなった。

課題

参加者が予定よりも少なく、周知方法や開催方法の改善が必要。

メールやSNSでの周知はなかなか届かない。会って（電話で）説明することが重要。

日本人参加者を集める際、もっと地域組織と連携できればよかった。

外国人が出展するブースがなかった。

地域主催の防災訓練やイベントに外国人市民が参加しやすくする工夫が必要。

参考としたサイト、情報等

多文化共生のまちづくり促進事業（クレア）
https://www.clair.or.jp/j/multiculture/kokusai/page_8.html

災害時多言語表示シート（クレア）
https://dis.clair.or.jp/

NHK World JAPAN
https://www3.nhk.or.jp/nhkworld/

多言語音声翻訳アプリVoicetra
https://voicetra.nict.go.jp/

岡山市役所国際課　086－803－1112